

文化財を活用した文化観光の推進による地方創生パッケージ

歴史・文化の豊かな京都の地から文化庁ならではの地方創生を実現するため、地域の宝である文化財について、官民連携で新しい価値を創造し、持続可能な活用を推進

文化観光推進本部の機能強化

- 京都文化庁に、関係課で連携して、文化財の活用（観光活用、資金調達等）に関する民間人材を配置。官民連携で新たな価値を創造するため、文化財の専門職員である文化財調査官とともに、全国各地への伴走支援の実施に向けて機能強化
- 京都文化庁に、文化財の活用に関する相談窓口を設置するとともに、活用に関するセミナーを全国で開催

サステナブル・レスポンシブルな観光に資するモデルを 京都の文化庁から 構築、発信



文化財を高付加価値化する事業の創設

- 機能強化した京都の文化庁が旗を振って、文化財を高付加価値化して活用するためのコンテンツ造成事業を創設 → ①
- 活用のために必要な文化財建造物の改修、多言語化などインバウンドの滞在快適性等を向上する整備の支援を充実 → ②③
- これらの活用を一過性で終わらせないため、民間人材によるコーチング、資金調達（寄付や融資）への伴走を実施し、持続可能な好循環の構築を実現

(参考) 観光と文化の「京都モデル」

文化と地域コミュニティの継承・発展に向けて、観光を好循環を生み出す「プロモーター」となるべきものと位置づけ、行政による下支えのもと、観光と文化の力でSDGsの達成を目指すモデル。
(国連 観光・文化京都会議2019で発信、世界から高く評価)



京都モデルの実践例



二条城（世界遺産・国宝）

官民連携のユニークベニュー活用により、新たな客層を開拓。収益を文化財修理に充当。



旧三井家下鴨別邸（重要文化財）

地域の老舗料理屋による朝食体験や、夜間開館、一棟を貸し切る高付加価値化で収入拡大、地域へ経済波及。

①全国各地の魅力的な文化財活用推進事業

令和6年度予算額（案）

724百万円（国際観光旅客税財源）



※詳細調整中

機能強化した京都の文化庁が伴走し、文化財を高付加価値化して活用するためのコンテンツ造成を支援します！

背景・課題

- インバウンドの地方誘客を進める上では、我が国の宝である文化財は観光立国推進の切り札であるが、
 - ・これまで活用に取り組んでいない文化財の掘り起こしや、
 - ・これまでにない内容・方法で堪能できるコンテンツ など、
 高付加価値旅行者の知的好奇心を満たすような上質で思い切った活用が進んでいない。
- 文化庁京都移転を契機として、文化庁ならではの地方創生を実現するため、官民連携により文化財の高付加価値化を推進する必要。

事業内容

- 国宝・特別史跡などの国指定等文化財について、上質で思い切った活用（特別な歴史体験、夜間活用、ユニークベニュー等）を図り、インバウンドの旺盛な知的好奇心を満たす高付加価値なコンテンツ造成を実施し、活用から保存への再投資を図る。
- その際、活用が表面的なものに終わらないように、文化庁（本質的価値との両立等の観点）や専門家（具体的な活用プランや資金調達等の観点）が伴走支援を行いつつ、所有者等の意識改革のためのセミナー等を実施するなど、パッケージで取組を推進。



事業者	文化財所有者、管理団体、地方公共団体、民間事業者またこれらによって構成される協議会 等	主な要件等	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定等文化財を核としたコンテンツであること ・活用から保存への再投資を図る仕組みを可視化すること
補助率	補助対象経費の1/2、条件に応じて最大2/3まで加算	事業期間	令和6年度～令和7年度

取組イメージ

特別な歴史体験

京都府 | 二条城

二之丸御殿においてAR・VRを活用し、大政奉還を多言語で再現することで、史実に基づく歴史体験（Living History）を提供。



夜間活用

愛媛県 | 大洲城

復元された木造天守に宿泊し、滞在を通じて地域の伝統芸能・工芸・食を堪能。雇用創出・文化財への収益還元を実現。



ユニークベニュー

佐賀県 | 名護屋城跡

城跡で地域の食材や有田焼を活用した野外レストランを実施、厳しい規制のかかる特別史跡の積極的な活用に挑戦。



② 高付加価値化された文化財への改修・整備促進事業

令和6年度予算額（案）

946百万円（国際観光旅客税財源）



※詳細調整中

活用のために必要な文化財建造物の改修や、美観向上整備、活用環境の強化を支援します！

背景・課題

- モダン建築をはじめとする文化財を活用した宿泊施設や、美術館・博物館等の文化施設は、外国人旅行者を満足させる上質な施設としての整備が期待されている。
- また、伝統的建造物群保存地区や史跡など、外国人旅行者が滞在する文化財において、宿泊機能の整備、多言語対応、洋式トイレの整備等が進んでおらず、上質な体験やエリアの魅力を十分に伝えきれていない。

事業内容

- 国指定等文化財の魅力向上につながる高付加価値化改修、美観向上整備、活用環境強化を支援することで、建造物自体の魅力向上、美術工芸品の公開活用、観光客の滞在快適性向上を図る。



1 文化財の高付加価値化改修

高付加価値化された宿泊・飲食・集客施設として活用するため、計画の策定から改修工事までを支援

補助率・上限額

- ・補助対象経費の1/2、条件に応じて最大2/3まで加算
- ・上限は2億円（付帯設備の新築はそれぞれ上限2千万円）

主な要件

- ・国指定等文化財建造物であること
- ・観光関係者と共同で計画を策定すること

2 文化財の美観向上整備、活用環境強化

外観等の美装化、内装等の活用整備、鑑賞環境の整備を支援（活用に必要な付属施設の整備は、新築も可能。）

補助率・上限額

- ・補助対象経費の1/2、条件に応じて最大2/3まで加算
- ・上限は5千万円（付帯設備の新築はそれぞれ上限2千万円）

主な要件

- ・国指定等文化財であること
- ・外国人観光客の入れ込み数の目標値等を設定していること

取組イメージ

明治生命館 （重要文化財・東京都千代田区）



元々執務室だった空間に美術館を移転。古典主義様式の傑作を活用した東洋古美術の魅力的な鑑賞空間に。



【写真提供】
株式会社TOREAL
藤井浩司

高岡市・金屋町重伝建地区



築100年の古民家をリノベーションし、特産の鋳物作品の魅力を体感できる一棟貸しの高付加価値ホテルを整備。



【写真提供】
STUDIO DUCK
内山昭一

③文化財多言語解説整備事業

令和6年度予算額（案）

1,757百万円（国際観光旅客税財源）



※詳細調整中

映像や音声等を組み合わせた先進的・高次元な多言語解説コンテンツの整備を支援します！

事業目的・背景・課題

- 訪日外国人旅行者が地域の観光資源である文化財を訪れた際、解説文の多言語表記が不十分等の理由により、魅力が伝わりにくといった課題が指摘されている。
- 訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して先進的・高次元な多言語解説を整備する事業を、観光庁の施策と連携させつつ実施する。

事業内容

- 先進的・高次元な多言語解説媒体を用いて、映像や音声等を組み合わせたコンテンツによって表示する事業について支援する。
- ※ 先進的・高次元とは
アプリやVRなどのデジタル技術、ユニバーサルデザイン、環境に配慮した資材 等

事業スキーム

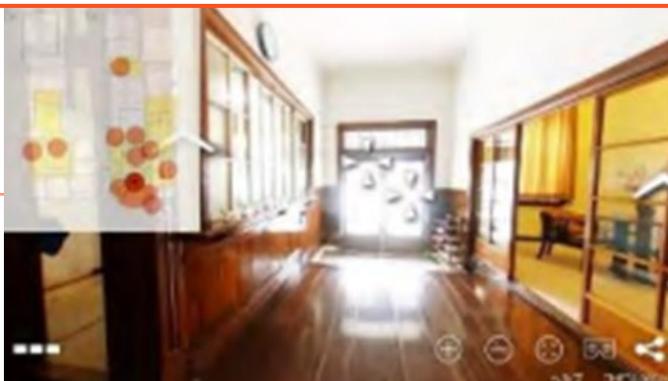
補助金

- **直接補助**
3,000万円又は補助対象経費の3分の1（加算あり）
- **補助対象**
文化財所有者、自治体、民間事業者（観光協会）等
- **対象経費**
多言語解説コンテンツの作成、コンテンツを閲覧するための媒体の整備 等

取組イメージ

外国人に向けた 飛騨市文化財バーチャルガイド 展開事業

通常は入ることができない文化財内部を360°VRと多言語解説で紹介。



観光庁「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」との連携・協カイメージ

- 専門家を地域に派遣し、多言語解説文の作成を支援
- 多言語解説文の執筆、監修に携わる専門人材のリストアップ



連携・協力



- 観光庁事業で作成した解説文を活用し、多言語解説媒体を整備

参考資料

- 文化庁京都移転を契機に、2025年大阪・関西万博に向け、**高付加価値旅行者の地方誘客による地方創生**を実現するため、**全国各地における文化財の高付加価値化、持続可能な保存・活用をプッシュ型で抜本的に進める。**

①プッシュ型での活用の促進

1. 文化財の活用に関する相談窓口の設置

地方公共団体、文化財所有者からの活用に関する相談に対応

2. 文化財の活用に関するセミナー等の開催

活用の好事例や文化財保護法に則した活用のポイントを紹介

②全国各地の魅力的な文化財の高付加価値化

世界遺産や国宝等の地域の魅力的な文化財の活用（**特別な歴史体験、夜間活用、ユニークベニュー利用等**）を推進。
各事業内容の高付加価値化、活用から保存への持続可能な好循環の仕組みの可視化。

【取組のイメージ】

二条城（世界遺産・国宝）

官民連携のユニークベニュー活用により、新たな客層を開拓。収益を文化財修理に充当。



【写真提供】元離宮二条城事務所

旧三井家下鴨別邸（重要文化財）

地域の老舗料理屋による朝食体験や、夜間開館、一棟を貸し切る高付加価値化等で収入拡大、地域へ経済波及。



【写真提供】京都市観光協会

③高付加価値化された文化財への改修・整備

モダン建築（明治以降に建てられた建造物）や**重要伝統的建造物群保存地区**等の文化財について、高付加価値化された**宿泊施設、集客施設へのリノベーション・コンバージョン**（改修・用途変更）、**滞在環境の整備**を推進。

【取組のイメージ】

明治生命館（重要文化財）

元々執務室だった空間に美術館を移転。古典主義様式の傑作を活用した東洋古美術の魅力的な鑑賞空間に。



【写真提供】株式会社TOREAL 藤井浩司

高岡市・金屋町重伝建地区

築100年の古民家をリノベーションし、特産の鋳物作品の魅力を手感できる一棟貸しの高付加価値ホテルを整備。



【写真提供】STUDIO DUCK 内山 昭一

(世界遺産をはじめとする文化財の抜本的活用の促進)

- 地方誘客を促進するため、全国各地において、**我が国が誇る世界遺産や国宝等の地域の魅力的な文化資源の活用（特別な歴史体験、夜間活用、ユニークベニュー利用等）を推進**する。その際、**各事業内容の高付加価値化とともに、文化資源の活用から保存への持続可能な好循環の仕組みを可視化**し、特に高付加価値旅行者に訴求する。

また、**モダン建築（明治以降に建てられた建造物）や重要伝統的建造物群保存地区等の文化財について、高付加価値化された宿泊施設、集客施設へのリノベーション・コンバージョン（改修・用途変更）、滞在環境の整備を推進**する。

(略) 文化財関係者や教育委員会等が文化財等の活用に主体的に取り組むことを促すため、文化財を活用した好事例や文化財保護法に則した活用のポイント、ナレッジ集等について、**セミナー・ワークショップ開催等のプッシュ型で周知**するとともに、**文化財の活用に関する相談窓口を文化庁に設ける**。

(地域文化資源の MICE への活用推進)

- 全国各地において、**地域の魅力的な文化資源の活用（特別な歴史体験、夜間活用、ユニークベニュー利用等）を推進**し、我が国各都市のMICE開催地としての魅力向上につなげる。その際、**各事業内容の高付加価値化とともに、文化資源の活用から保存への持続可能な好循環の仕組みを可視化**することにより、MICE参加者への訴求と文化資源の一層の活用促進を図る。

(ユニークベニューに関する情報提供の充実と活用促進)

- 関係府省庁との連携の下、MICE向けユニークベニューとして利用可能な文化財・文化施設、スポーツ施設等についてのMICE関係者への情報提供の充実を図る。あわせて、**活用の好事例や活用のポイント、ナレッジ集等についての周知、相談窓口の開設・紹介等を行うことにより、ユニークベニューとしての一層の活用拡大を図る**。